

平成30年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
平成31年 2月4日（火）	高津地区振興センター	19:00～20:00	23	2	25

○市側出席者

市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

○開会（秘書課長）

- ・会の趣旨説明
- ・出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

本年度の施政方針における基本方針は「連携の進化（深化）」である。昨年度施政方針の「地元民間企業との連携の強化」を受けて、さらに内容を一步進めるというものである。

・官民連携

まず官民連携だが、「自転車によるまちづくり」がこれに該当する。元々NPO法人が自転車の大会を開催していた。機運の高まりを受けて市も2020年東京オリンピック・パラリンピック自転車競技の事前キャンプ誘致を進めていく方針とした。昨年11月にアイルランド自転車競技チームの若手選手が来益し、その際に2020年の事前キャンプ実施の合意がなされた。今年もプレ大会のキャンプ等が行われる。スポーツ振興、交流人口拡大などが期待されるが、市民が直にオリンピックの精神に触れる絶好の機会とも考える。自転車に親しむ事業なども行っていきたい。

・政策間連携

一つの取り組みに幾つかの政策目的をかけ合わせて行う。特に「歴史を活かしたまちづくり」が例として挙げられる。一昨年の「中世の戦国武将展」、現在策定を進める「歴史文化基本構想」等。今後、日本遺産登録を目指し、様々な研究・発信に努めたい。文化財研究の他、教育的効果、特産品開発や観光等様々な目的を持った政策である。

・都市間連携

大都市との連携では、姉妹都市である大阪府高槻市との関係を強め、スポーツ交流や祭りの相互参加のほか、ふるさと納税返礼品の相互提供も行っていった。総務省の指導もあり現在はやめているが、違う形で今後も連携を図りたい。

川崎市については、スポーツ・文化交流等に加えて、商工会議所同士、産業・経済面での連携を進めている。同市には製造大手の企業が多くあり、それら大企業が持つ特許のうち、休眠特許と呼ばれる未活用の特許を益田市内の製造業者に紹介し、新たな商品開発につなげるというマッチングを行った。空港の利用促進にもつながるので、今後も推進していくつもりである。

・大学との連携

首都圏の大学との交流でも新しい取り組みを始めている。大正大学地域創生学部の学生の受入れを昨年～今年と行い、約40日間滞在し地域資源掘り起こしなどで活動してもらった。

また今年から、東京大学の体験活動プログラムにより同大学の学生を受け入れ、本市の歴史資源と観光開発を結びつけるための提案をしてもらうことになっている。小中高校生との交流を通じて、ひとづくりの輪ができるという効果もある。

・広域連携

島根県や山口県、近隣市町との連携も重要で、特に力を入れているのが萩・石見空港の利用促進と、山陰自動車道の整備促進である。

東京線の2往復運航は31年3月以降続くかどうか不透明であり、目標を上回る搭乗実績が必要である。皆様のご協力をお願いしたい。山陰道については、三隅～益田の供用開始時期がまだ示されていないので、国に働きかけを行っている。益田～萩間については、そのうち須子～小浜間のルート案が3つ示された。市としてはファクトリーパーク、国営開パイに好影響をもたらす南側ルート

案を国に対し推している。間もなく住民アンケートが実施される見通しであり、回収率が高くなるようご協力願いたい。

・**庁内連携**

以上の連携を図るうえでは市役所内部の連携も重要になってくる。今年度から美都・匹見支所も、本庁とストレートにつながる機構改革をした。教育委員会との連携などもしっかりと行っていきたい。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 自治会長会議の運営について
- ② 街路灯設置事業について
- ③ 「益田サント節」について
- ④ ごみ袋について
- ⑤ 都市交流について
- ⑥ 産業振興について
- ⑦ 地域自治組織について
- ⑧ 身障者トイレについて

○ 閉 会 （秘書課長）

平成30年度「市長と語り合う会」

〔会場 高津地区振興センター〕 開催日時：平成31年2月4日（月）19:00～20:00

要 望 事 項 等	回 答
① 自治会長会議の運営について 市の説明だけで予定の時間が終わっていた。	① 旧益田市地域の会は大所帯であり、質疑応答の時間が減少したのは大きな反省点である。市の施策を周知する会であるが、この方法が効果的か等、市でも検討を始めた。この語り合う会も市民の意見を聞く場である。いずれにしても広報広聴の機会を充実させたい。
② 街路灯設置事業について LED化は理解するが、補助金を取り止めるというのは疑問。自治会が負担すべきとは思えない。	② 当初想定を低く見積もっており、反省している。しかし公費負担も厳しく、自治会にお願いしている。今後の交換についての補助のあり方はその時点の状況を踏まえて、公平公正になるように考えたい。
③ 「益田サント節」について この曲を産業祭などの催し物で流してもらえないか。	③ ご当地ソングとして大切に思うが、商業的な音楽でもあると承知している。公の場で流すことについては慎重に検討したい。
④ ごみ袋について 600円は高いという声が多い。	④ 製造原価と手数料をご負担いただいている。他市と比べても決して高くはないという認識であるが、価格の適正性は常に検証していきたい。
⑤ 都市交流について 川崎市とのスポーツ交流が盛んになっているが、産業交流をもっと力を入れてほしい。	⑤ 都市交流については今後も精力的に行っていきたい。
⑥ 産業振興について 農林水産業の振興にもっと力を入れて、雇用を生んでほしい。	⑥ 近年の問題として、仕事不足から人手不足の状態に変わってきている。仕事や将来の担い手育成に力を入れている。もちろん企業誘致は引き続き力を入れて取組む。数年間新規誘致がなかったが、広島食品製造会社「都吹」や「西南セラミックス」などが創業しつつある。おっしゃるように農業も大事であり、担い手・後継者の確保が重要である。食べていける産業にするために、製品の単価を適正にしないといけない。
⑦ 地域自治組織について 高津地区は設立の目途が立っていない。地区振興センターが無くなるが不便にはならないのか、不安である。	⑦ 現在11地区で設立されているが、益田・吉田・高津はまだである。山間地に比べ不便が少なく、住民の意識が切迫していないという部分や、高津は特に広く、分団単位で考えるという素地もある。しかしいずれ必要になる時が来るはず。地区振興センターの仕事は基本的に公民館に引き継がれる。
⑧ 身障者トイレについて 益田駅のトイレは段差があり、身障者にとっては危ない。他の市は駅に身障者用が必ずある。EAGAにあるが、表示も乏しく分かりにくい	⑧ 要望は様々いただいているが、JRの施設に公費を投じるのは難しく、近くのEAGA内に設置済みということもある。市の立場としては身障者団体と一緒にあって、JRに設置

。	の要望をしていくということである。表示についても同様に検討していく。
---	------------------------------------